

福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 11 月 26 日
東京電力株式会社

<タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。

[貯蔵設備]

- ・6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付中。

トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

| 号機 | 排出元 | 移送先 | 移送状況 |
|-----|-------------------------------|--------------------|---------------------|
| 1号機 | ・1号機タービン建屋 | 2号機タービン建屋 | ・11/25 14:54～ 移送実施中 |
| 2号機 | ・2号機タービン建屋 減容処理建屋(高温焼却炉建屋) | 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物] | ・11/10 9:10～ 移送実施中 |
| 3号機 | ・3号機タービン建屋 | 集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋] | ・11/15 9:25～ 移送実施中 |
| 6号機 | ・6号機タービン建屋 | 仮設タンク | ・11/26 移送予定なし |

| 移送先 | 移送先の水位状況 (11/26 7:00 時点) |
|---------------------------|---|
| プロセス主建屋 | 水位: O.P.+ 2,053 mm(水位上昇累計:3,270 mm) 11/25 7:00 から 91 mm 上昇 |
| 雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋) | 水位: O.P.+ 2,107 mm(水位上昇累計:2,833 mm) 11/25 7:00 から 146 mm 上昇 |

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (11/26 7:00 時点)

| | トレンチ立坑 | タービン建屋 | 原子炉建屋 |
|-----|--|---|--|
| 1号機 | O.P. <+ 850 mm (11/25 7:00 と同じ) | O.P.+ 3,654 mm (11/25 7:00 から 220 mm 下降) | O.P.+ 4,151 mm (11/25 7:00 から 46 mm 下降) |
| 2号機 | O.P.+ 3,019 mm (11/25 7:00 から 16 mm 上昇) | O.P.+ 3,031 mm (11/25 7:00 から 13 mm 上昇) | O.P.+ 3,139 mm (11/25 7:00 から 10 mm 上昇) |
| 3号機 | O.P.+ 3,272 mm (11/25 7:00 から 11 mm 下降) | O.P.+ 3,029 mm (11/25 7:00 から 18 mm 下降) | O.P.+ 3,242 mm (11/25 7:00 から 17 mm 下降) |
| 4号機 | - | O.P.+ 3,043 mm (11/25 7:00 から 15 mm 下降) | O.P.+ 3,069 mm (11/25 7:00 から 6 mm 上昇) |

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値) 10/24 採取分より、放射能濃度の検出限界値を下げる取り組みを開始。

| 採取場所 | 採取日 | 採取時間 | 濃度限度比(倍) | | |
|---------------------|-------|------|----------|----------|----------|
| | | | ヨウ素-131 | セシウム-134 | セシウム-137 |
| 福島第一 5,6号機放水口北側約30m | 11/25 | 8:50 | ND | 0.11 | 0.10 |
| 福島第二 1,2号機放水口南側約7km | 11/25 | 7:50 | ND | 0.01 | ND |

・その他、11/25に採取した沿岸1地点における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)については全てND。

<使用済燃料プールの冷却> (11/26 11:00 時点)

| 号機 | 冷却方法 | 冷却状況 | プール水温度 |
|-----|----------|------------------|--------|
| 1号機 | 循環冷却システム | 運転中(8/10 11:22~) | 16.0 |
| 2号機 | 循環冷却システム | 運転中(5/31 17:21~) | 18.1 |
| 3号機 | 循環冷却システム | 運転中(6/30 18:33~) | 18.0 |
| 4号機 | 循環冷却システム | 運転中(7/31 10:08~) | 24 |

[2号機]・11/6~ 使用済燃料プール放射性物質除去装置の運転を開始。

[4号機]・11/25 23:04、使用済燃料プール循環冷却システム異常の警報が発生し、当該システムが自動停止。その後、現場調査の結果、水の漏えいがないことを確認。同日 23:39、同システムを再起動。システム停止中、プール水温に有意な変化はなし。
流量検出器は正常に動作しており、一過性の異常による警報発生と推定。なお、11月17日にも同様の事象が発生しており、今後、計器の点検等を実施予定。

<原子炉圧力容器への注入・原子炉の状況> (11/26 11:00 時点)

| 号機 | 注入状況 | 給水ノズル温度 | 原子炉圧力容器下部温度 | 原子炉格納容器圧力 |
|-----|---|---------|-------------|--------------|
| 1号機 | 淡水注入中 (給水系:約4.5 m ³ /h) | 39.4 | 40.3 | 118.0 kPaabs |
| 2号機 | 淡水注入中 (給水系:約3.0 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約4.5 m ³ /h) | 67.0 | 73.2 | 110 kPaabs |
| 3号機 | 淡水注入中 (給水系:約2.0 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約6.0 m ³ /h) | 57.7 | 67.0 | 101.6 kPaabs |

1号機原子炉格納容器圧力について、数値に誤りのある可能性が確認されたため、現在調査中。

[1・2・3号機] 10/28より、2号機原子炉格納容器ガス管理システムを本格運転後、10/29に比較的高い濃度の水素が検出されたことから、1~3号機原子炉圧力容器内に直接窒素を封入し、蒸気がない状態においても水素濃度が可燃限界(4%)以下となるように管理。

11/24、原子炉圧力容器への窒素封入までに期間を要することから一時的に原子炉圧力容器内の温度を上昇させ、蒸気割合を増加させるため、原子炉注水量の減少操作を実施。

その後、11/26 10:18~11:02、各号機の温度変化が小さく、流量減少による温度変化が現れる可能性があることから、さらに原子炉注水量の減少操作を実施。

・1号機:給水系からの注水量を約5.0 m³/hから約4.5 m³/hに調整。

・2号機:炉心スプレイ系からの注水量を約5.5 m³/hから約4.5 m³/hに調整(給水系は約3.0 m³/hで継続して注水)。

・3号機:炉心スプレイ系からの注水量を約7.0 m³/hから約6.0 m³/hに調整(給水系は約2.0 m³/hで継続して注水)。

[4号機][5号機][6号機] 特に変化なし。

<その他>

・10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5,6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。